

2013年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	情報学科						
科目名	計算機アーキテクチャ						
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次前期		
必修・選択の別	選択						
担当者	佐塚秀人（久留米工業大学）						
授業の到達目標（シラバスから）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータアーキテクチャの意味を理解している。</li> <li>・コンピュータの基本構造とその性能について理解している。</li> <li>・コンピュータの進化の歴史について連続性をもった理解ができています。</li> <li>・記憶装置の階層化技術、性能向上ための手法を理解している。</li> <li>・最新のマイクロプロセッサのしくみとその設計方針を理解している。</li> </ul>						
日程と内容	<p>4/12 第1回： 導入講義： 授業の進め方と概要の説明、成績評価法を説明し、その他についての簡単な説明を行う。</p> <p>4/19 第2回： 計算機の基本原則（プロセッサ、メモリ、ディスク、I/O）</p> <p>4/26 第3回： コンピュータの歴史 1： 黎明期</p> <p>5/03 第4回： コンピュータの歴史 2： 汎用大型コンピュータまでの歴史</p> <p>5/10 第5回： コンピュータの歴史 3： マイクロプロセッサ誕生とパーソナルコンピュータの時代</p> <p>5/17 第6回： コンピュータの命令（アーキテクチャを基本となる命令セットの意味）</p> <p>5/24 第7回： プロセッサの仕組みと共通アーキテクチャへの道</p> <p>5/31 第8回： 現代のマイクロプロセッサにみる高速化技術</p> <p>6/07 第9回： メモリアーキテクチャ（階層記憶の考え方）</p> <p>6/14 第10回： 仮想記憶のための技術（OSと連携するメモリ管理技術）</p> <p>6/21 第11回： メモリデバイスの技術（主記憶を構成する技術とRAMの高速アクセス）</p> <p>6/28 第12回： データ転送の技術（バスによるデータ転送とその効率化の手法）</p> <p>7/05 第13回： I/O処理のアーキテクチャ（I/Oポートによる入出力、DMAによる入出力）</p> <p>7/12 第14回： ネットワークアーキテクチャ（LANとインターネットを取り込むコンピュータシステム）</p> <p>7/26 第15回： 新しい時代のコンピュータアーキテクチャ：</p>						
成績評価基準	定期試験	90%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計				
	演習	10%		100%			
授業到達目標の達成度	授業の内容については目標をほぼ達成した。合格者は授業の到達目標位の60%以上を理解できていると判断する。						
反省点	専門で研究開発をしている立場ではないため最新の技術をわかりやすく教えることができない。そのため、60年間の歴史を最初に説明して、現在の技術がどのような流れの中で培われてきたかを説明している。しかし、学生はそのようなことにはあまり興味がないようで、目的意識を共有できていないと感じている。今回は試験前に練習問題を公開したり、試験対策には配慮したつもりだが、点数の平均は低く、結果が不合格者を多く出してしまった。この点は反省する要素があると感じる。						
来年度の計画	歴史的な流れは来年度も説明をしていきたいが、過去から逆上って現在というスタイルを、現在と過去から双方向で考えていくというスタイルがとれないかを検討したい。具体的な計画はまだ準備ができていないが、授業の構成を変更して対応する予定である。						
授業評価アンケートに対するコメント	特に強く問題あるという点がないことはないが、全体として高い評価を得ることができていない。授業の内容や準備に問題があり、学生の興味を惹きつけることができていないことがわかる。唯一平均を上回っているのが熱意を感じるかという点なので、気持ちだけが空回りしていると学生は感じているのかもしれない。非常勤であるので、学生とのコミュニケーションを十分にとることが難しいが、学生の興味や感心をひきつけられる話を積極的に導入していきたい。						
履修登録者数	39名	定期試験受験者数	36名	合格者数	30名	合格率	83%